

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

1. はじめに

本校は平成23年度にユネスコスクールに登録し、ユネスコの理念を実現すべく、環境を中心とした取り組みを実施している。具体的には、学校林の植樹、夜叉神峠の清掃活動と巣箱や自然愛護看板設置、そして、「まなぶ全校登山」である。

学校林の植樹では、桜（染井吉野）の苗木を学校から50分ほど歩いた場所にある学校林に植えている。苗木についてはシカの食害が著しかったが、苗木に防護カバーを取り付けていることで、その多くが食害を逃れることができた。

夜叉神峠の清掃活動は、毎年全校登山前に実施している。グループごとに、登山道のゴミ拾いや環境啓発看板・巣箱の設置を行っている。生徒数が限られてはいるが、登山口にある山小屋の掃除および周辺の除草を行い、登山客が気持ちよく登山してもらえるように活動している。

また、後述するまなぶ全校登山は、本校が自然体験活動を重視していることを特色づける大きな柱となっている取り組みである。本校の自然と環境への取り組みは、ユネスコスクールに登録する前から行ってはいたが、登録によりさらに多くの方々へ本校の活動を発信すべく、ホームページなどで積極的に自然環境を啓発する活動を行っている。

2. 主な活動

(1) 環境・生物多様性に関する活動

(1)-1 まなぶ全校登山

①まなぶ全校登山の概要

本校のまなぶ全校登山（H28年度より、登山の全容把握のため「まなぶ」を追加）は、1977年に創立30周年の記念行事として始まった。1992年以降、北岳・仙丈ヶ岳・鳳凰三山の三つの山をローテーションで登ってきた歴史がある。これらの山々はいずれも南アルプス市芦安地区（旧芦安村）にあり、登山学習の一つに日本有数の山々が我がふるさと芦安にあるという誇りを生徒に持ってもらいたい願いがあるからである。

また、2008年からは毎年テーマを設けて登山学習を行っている。ここ数年、山ごとにテーマが決まっている。具体的には、北岳は「自然環境について」、仙丈ヶ岳は「写真などを使った自己表現」、そして、鳳凰三山は「歴史や文化について」を学習している。これらの学習の充実を図るために、地域の登山愛好者、環境省や南アルプス市役所などから専門家の方々を招聘して、外部との連携も図っている。

②鳳凰三山の実践

1) ねらい

【歴史や文化について】

・鳳凰三山への登山体験および学習を通して、山に親しみ、山を知り、山について考え、誇りを持って地域に関わっていこうとする心情を育む。

【環境学習の観点から】

・鳳凰三山の豊かな大自然の中で生きていることを実感できる活動において、動植物の生態系を中心に知識を深め、多様な生態系を学ぶ機会とするとともに、私たちに多くの恵みをもたらしている自然との共存を理解する。

【自己表現活動の観点から】

・鳳凰三山の歴史と文化について学び、大自然と共に生きた先人を知り、仲間を見つめ、自己の在り方に目を向け、今後の生き方について表現しようという態度を養う。(学習の発展として、学んだ内容を英語表現した。)

2) 登山学習の経過

○鳳凰三山の自然についてよく知り登山しよう【地元登山支援者 清水准一さん】

鳳凰三山の動植物や地質、登山経路の概略、そして芦安地域の鳳凰三山をはじめとする南アルプスの多くの高山について説明していただいた。特にライチョウやキタダケソウは氷河期の残存種でありとても貴重であることやシカが標高2000m以上にまでやってきて草花を食べていることなど、現在南アルプスにおける自然環境の現状を説明していただいた。

○一眼レフのカメラの使い方について【地元登山支援者 清水准一さん】

芦安ファンクラブから一眼レフカメラ15台を寄贈していただいた。H27.6.26

○南アルプスの歴史と文化について【市教育委員会文化財課 齋藤秀樹さん】

芦安フィールドワークで神社や寺院の歴史、ゆかりのある歴史上の人物、道祖神等について学び、そのいわれや功績等の説明をいただき、ふるさとの歴史や文化の価値を実感した。

○鳳凰三山の体験と感動をレポートで表現しよう

鳳凰三山に登って発見や印象深かったことを記録し、感動した景色や場面の写真撮影を行い、伝えたいことを意識した作品が多く出された。作品は学園祭で掲示を行った。

3) 鳳凰三山登山について

鳳凰三山登山は7月8日(金)、9日(土)の1泊2日で実施した。初日は天候に恵まれたが、2日目には天候悪化のため薬師岳登頂で下山した。全校生徒全員が励まし合って、全員無事に登山を成功させることができた。山頂へは2日目の早朝に到達し、豪雨の中、それぞれの思いを書き記した横断幕を山頂に掲げて記念写真を撮ることができた。二山の登頂は荒天のため達成できなかったが、これもまた大自然に触れる経験をしたと言える。

4) 成果と課題

【成果】

○まなぶ全校登山の一連の活動を通じて、南アルプスという日本有数の山岳地域に私たちが暮らしている誇りや環境保護の大切さを感じることができた。

○山に関わる様々な方との交流の機会を通じて、南アルプスの自然の奥深さや雨

天の中の登山を経験する中で登山に対する幅広い見識を得ることができた。

○登山学習で感じた、自然の雄大さや貴重な動植物の大切さを学ぶことで、自分の思いや考えをレポートとして表現することができた。(ヒカリゴケ他)

○今回の「まなぶ全校登山」は、当初教師が主体となっていく場面が多かったが、登山学習を進める中で、散策や地域学習により、生徒が主体となる場面が多くなり、生徒自らが環境や地域について知ろうとする意識が高まった。ハロウィンの留学生との交流において、地域の文化を英語で伝えるといった表現の工夫にもつながった。

【課題】

○まなぶ全校登山は総合的な学習の時間を中心に取り組んでいる。さらに、総合だけでなく様々な教科との関連や連携を図ることで、生徒にとって、登山や環境についてさらに深く学習できる工夫を図りたい。

(1)-2 学校林植樹

・本活動は、4月23日(土)の午後、授業参観やPTA理事会後、生徒、保護者、教職員で実施した。昨年度同様に、桜(染井吉野)を生徒一人1本植えた。

(1)-3 夜叉神登山道清掃活動

・本活動は、7月1日(金)、7:30~午前中教員と生徒で実施した。内容は、夜叉神峠付近の環境美化活動(登山道のゴミ拾い、小屋の清掃、除草)と自然愛護活動(小鳥の巣箱の設置)である。教員と生徒がチームを組み、分担して活動にあたった。特に、登山道を外れたところに多くのゴミがあり、登山道のゴミはほとんどなかった。生徒は時間いっぱいまで意欲的に活動していた。生徒の口からは、昨年よりは少ないものの登山者のマナーをうたがう声が上がった。この活動は、自然の生態を守ることの大切さと大変さなど、体験してみて気づく学習となったものとする。

(2) 国際理解に関する活動

(2)-1 ハロウィンパーティー交流

①ハロウィンパーティー交流

英会話科2期1年目として、英会話授業の改善を図り、「双方向性のある英会話を実現しよう」というねらいで、全校15名を3グループに異年齢編成し、英会話の場面を設定し、基本的な会話文を提示し、その場面で起こりうる問題を個で考え、グループで起こりうる問題を話し合い、辞書やインターネット(タブレット)を使い英文化し、グループ内でシュミレーションを行う。最後にALTとシュミレーションするといった形式に替えた。利点としては、学年にとらわれず問題解決に参加できる。下級生は上級生を見て学習する相乗効果がある。教師全員が関わることができる。英語科教師とALTはより多くの生徒にアドバイスできる等の校歌が実証された。ハロウィンパーティー交流では、山梨大学の留学生(多国籍留学生)に対して、3年生5人によるウェルカムセレモニー、グループでは芦安地区の文化財について発表し、質疑応答に意欲的に臨んでいた。「Do you always pray(祈る)?」という質問に対しては、playと思い込んでしまって躊躇

した場面もあったが、ALTのアドバイスでクリアーできた。こういった体験は生徒に記憶として残り、振り返りノートから会話の幅を広げる動機付けとなったと言える。

南アルプス市教育委員会主催の学校説明会の公開授業では、外国のレストランに行ったときに起こりうる場面を想定した学習の場をつくった。生徒は様々なアクシデントに戸惑いながらも、何かと英語で答えようと努力していた。このことから、生徒により実践的な会話をする体験をさせることができた。

なお、後半は、2期2年目として、ディベートに挑戦する前段階として、助動詞や接続詞、未来形や進行形を使った、根拠を明らかにする英会話を実践し、高校1年生レベルとなるチャレンジをした。

②授業改善

1) ねらい

【国際理解学習の観点から】

- ・英語学習の成果として、英語を母語とする人や母国語に英語を加えたバイリンガルをめざす多国籍の留学生と英語を通して、コミュニケーション活動をするこ
とで、日本の良さを見直し、海外の生活の良さを知る機会とする。
- ・今後、国際社会に生きる日本人として、プレゼンテーションおよび相互の会話
を通して、自文化理解と異文化理解による世界観を深める。
- ・留学生との会話を通して、今後の幅広い英会話学習の動機づけとする。

【自己表現活動の観点から】

- ・英語でプレゼンテーションを行う中で、文法や発音の正確さだけが相手に伝える
ための技術ではないことを知る機会とする。話す速度や声の大きさ、顔の表情
や目線・ゼスチャーなども取り入れ、聞き手に伝わりやすいように表現しよう
という態度を養う。

2) ハロウィン交流の経過

平成28年10月28日(金)までに、4ステップに分けて、芦安の文化財をガイドする学習を行った。異年齢3グループがそれぞれ登山学習で得た知識を基に説明文を英文化し、説明に対して、予想される質問を検討し、対応できるように回答を準備した。当日は、雨天のため室内での写真を基に説明をしたが、留学生の質問で盛り上がり、英語を通してコミュニケーションをとることの楽しさを感じることができた。各学年または個々で、今日できたこと・できなかったことを振り返り、次回の英語学習への意欲と学習の深まりを期待できる内容であった。

【課題】

- 質問を予想させることにより、返答の準備ができるので、コミュニケーション能力の向上には一歩近づくことができたが、発音やイントネーション、アクセントや間合い等を意識させ、ナチュラルな会話にしたい。
- 場面設定を数多く学習させ、幅広い語彙の習得をさせたい。
- 小中の連携を充実させ、積み上げる英会話科をめざしたい。

5. おわりに

自然環境や国際理解に対する意識は、予備知識と体験することにより、その意識が高まったり、深まったりすると仮定すると、そこに予測する力、系統性を持

った学習計画，場面設定による疑似体験をさせることにより，今以上に深まることが期待される。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）